

若手研究者コラムリレー

佐藤 雄哉 (さとう ゆうや)



プロフィール

日本体育学会の専門領域: 体育哲学

【経歴】

2010年 国士館高等学校普通科 卒業

2014年 国士館大学体育学部武道学科 卒業

2016年 国士館大学大学院スポーツ・システム研究科 修了 修士(体育科学)

2019年 国士館大学大学院スポーツ・システム研究科 修了 博士(体育科学)

【現職】

2014年 日本エースサポート株式会社 (実業団柔道選手登録: 柔道部主将)

2019年 国士館大学体育学部附属体育研究所特別研究員

2019年 国士館大学政経学部 他 非常勤講師

E-mail: yuyas.0406@gmail.com



2019年国士館大学卒業式にて(筆者右から二番目)

わたしの研究

武道やスポーツが持つ教育的な価値とは？

私が研究に大きな熱意を持ったきっかけは、修士一年目に最初の研究計画を発表した時です。そこで私は礼儀作法を重視する性質を根拠に、柔道の教育的価値について発表したのですが、その主張は「礼儀作法を重視すれば礼儀正しい人間が育つわけではない」という意見によって破綻してしまいました。いいものなのに！言葉にできない！そのもどかしさが私の研究のスタートだったと思っています。(当時は“柔道はいいもの”という結論ありきで研究を進めていたところはあったかと思いますが、今はもう少ししっかりと取り組んでいます。)

さて、今の私の研究ですが、当初と変わらず柔道や武道、またスポーツの教育的価値を追求しています。しかし切り口は少し異なり、そこに至るまでの過程も見据えた「身体動作の獲得」が、どのように人格形成へと働きかけるかということに着目しています。例えば近年の社会的課題の一つに個性の尊重が挙げられますが、そこで示される個性とは一体何を指す言葉でしょうか。果たしてそれは、持って生まれた固有の性質を指す言葉でしょうか。あくまでも私見ですが、私は信号待ちで足払いの練習を始める柔道家をとて個人的だと思います。出会った途端に私服の襟を柔道衣のように掴んでくる柔道家もいますし、お辞儀の所作がとても美しい柔道家もいます。彼らはみな、等しく個性的です。そのような、武道やスポーツによって人格や行動が形成されること、言い換えれば「文化によって規定される」ことにはどのような意味があるのでしょうか。私の研究ではそのような視点から、武道やスポーツによる身体教育の価値について考えています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

佐藤雄哉. 礼とマナーの身体技法: 武道の文化的特性を巡って. 体育・スポーツ哲学研究 40(2): pp.25-36, 2018.

なんでも帳

今年の4月で30歳になりました。競技柔道での30歳はいわゆるベテランですが、会社のご厚意もありまだ現役生活を続けています。するとある日同期から、「よくまだ現役やってるね」と言われました。その時初めて私の脳裏に「なんで柔道をしているのだろう？」という問いが浮かびました。体育・スポーツ哲学では、重要なテーマの一つです。

肉体的には衰え、精神的なハングリーさも学生の時よりは少なくなりましたが、思い返すと明らかに、当時より楽しく取り組んでいます。得意な技術が決まった時、やりにくい相手への対処を考えている時、そしてそれがハマった時。30歳にして尚、発見と喜びの連続です。競技生活に身を置く以上、勝利こそが至上であると考えすることは、一種の真摯さだと思っています。しかし、勝利への渴望以外にも競争の原動力があるということは、私にとって大きな気づきでした。それは競技と研究と教育を並行することの出来る今だからこそ、実感を持って気づくことができたものだと思います。もう少し三足の草鞋を履きつつ、様々な気づきを見つけていきたいです。



2019年国士館大学スポーツ実習にて
(筆者中央後列)



2019年講道館杯全日本柔道
体重別選手権大会にて(筆者右端)

日本体育・スポーツ・健康学会
若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！ → [メーリングリスト登録フォーム](https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5q2):

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

